錦秋文楽公演

令和8年
10月31日(土)
~11月23日(月・祝)
※11月6日(金)、16日(月)は休演　字幕表示がございます

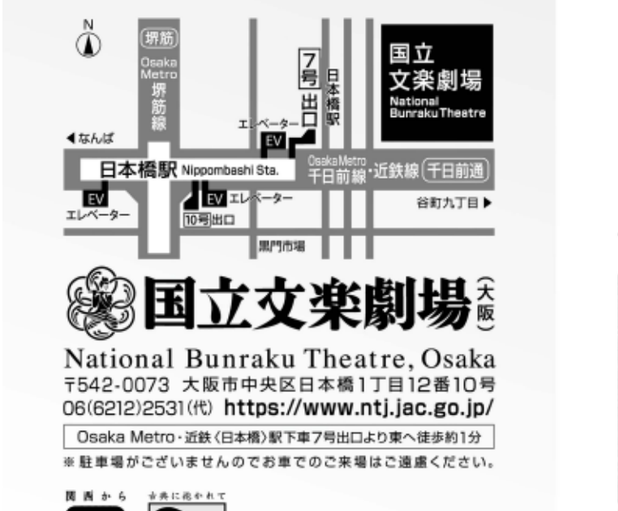
■予約開始　10月8日(木)午前10時～
※窓口での販売は翌日からとなります。

［電話］国立劇場チケットセンター（午前10時～午後6時）
0570(07)9900
03(3230)3000［一部IP電話等］
［インターネット］
国立劇場チケットセンター　検索

■ご観劇料［税込・全席均一］
各部6,500円（学生4,600円）
三部セット割引（同時購入限定★）18,000円
※障害者の方と介護者1名は2割引です（他の割引との併用不可）。また、車椅子用スペースがございます。詳細はチケットセンターまでお問い合わせください。
※インターネットでも学生料金、障害者割引による申し込みが可能です。
★三部セット割引は、第1部、第2部、第3部の三部を同時に購入した場合のみ適用されます。

団体予約受付中
団体観劇（10名様以上）のお申し込みは、営業課営業会員係まで　06(6212)5782

プレイガイド 10月8日(木) 午前10時より
チケットぴあ　https://t.pia.jp/
ローソンチケット　https://l-tike.com/
e+（イープラス）　https://eplus.jp/



国立文楽劇場（大阪）

National Bunraku Theatre, Osaka
〒542-0073 大阪市中央区日本橋1丁目12番10号
06(6212)2531(代) https://www.ntj.jac.go.jp/
Osaka Metro・近鉄〈日本橋〉駅下車7号出口より東へ徒歩約1分
※駐車場がございませんのでお車でのご来場はご遠慮ください。

関西から 文化力 POWER OF CULTURE
古典に花やれて 11月は古典の日
創る、育てる、未来へつなぐ くろごちゃんファンド ☎03-3265-6719

Bunraku performance
▸October 31 - November 23, 2026
*No performance on Nov. 6 & 16
Booking Opens at 10:00, Thursday, October 8, 2026
Box Office 0570-07-9900 (10:00-18:00)
https://ticket.ntj.jac.go.jp/top_e.htm
Language Support　ALL Parts: FREE handout of English synopsis

三代吉田簑助三回忌追善
錦秋文楽公演

令和六年十一月七日に惜しまれつつ逝去した三代吉田簑助は、他の追随を許さぬ華麗さと深みを湛えた芸風で、数々の名舞台を遺しました。また、不屈の精神で大病を克服して舞台に華を咲かせ続けたその姿は、数多くの観客を魅了しました。錦秋公演は簑助の三回忌追善として、ゆかりの演目で故人を偲びます。

第1部　午前11時開演（午後1時30分終演予定）

心中宵庚申

元は武家の生まれで新報（現在の大阪市西区）の八百屋の養子である半兵衛は、故郷からの帰りに立ち寄った女房お千代の実家の山城国上田村（現在の京都府相楽郡）で、自分の留守中にお千代が離縁されたことを知ります。お千代と姑は折り合いが悪いのですが、その姑は半兵衛にとって義理の深い養母です。半兵衛は、お千代を愛する一方で、お千代を追い出した母の立場を損ねてはならないという複雑な思いを抱えつつ、お千代を八百屋へ連れて帰るのでした……。

夫婦の愛と親への孝行との葛藤から、果ては心中へと追いやられる苦衷を中心に、家族の、そして人間の業の深さを細やかに描いた近松門左衛門円熟期の作品です。

簑助は、昭和四十年（一九六五）の復活上演以来、お千代を長らく持ち役にして、この薄幸の妻を抒情性豊かに遺しました。

上田村の段
竹本 千歳太夫　豊澤 富助
八百屋の段
二代野澤喜左衛門＝作曲
豊竹 呂勢太夫　鶴澤 藤蔵
道行思ひの短夜
野澤松之輔＝作曲　澤村龍之介＝振付
豊竹 睦太夫　豊竹 希太夫　竹本 南都太夫　竹本 織栄太夫　竹本 文字栄太夫　鶴澤 燕三　鶴澤 清 旭　鶴澤 清丈　野澤 錦吾　鶴澤 藤之亮

下女お菊　桐竹 勘昇
下女お竹　豊松 清之助
姉おかる　吉田 簑二郎
女房お千代　桐竹 勘十郎
百姓金蔵　吉田 簑太郎
島田平右衛門　吉田 玉也
八百屋半兵衛　吉田 玉男
丁稚松　桐竹 紋吉
伊右衛門女房　桐竹 勘壽
下女さん　吉田 玉延
娚太兵衛　吉田 玉翔
西念坊　吉田 簑悠
八百屋伊右衛門　吉田 玉輝
庚申参り（女）　吉田 玉誉
庚申参り（男）　桐竹 勘次郎
駕籠屋　大ぜい

第2部　午後2時15分開演（午後5時10分終演予定）

妹背山婦女庭訓

杉酒屋の娘お三輪は、恋人である烏帽子折の求馬の家に女が訪れたのを知り、その女と争います。求馬は素性の知れない女―蘇我入鹿の妹橘姫の、お三輪は求馬―実は身をやつして市井に潜伏している藤原淡海の跡を追って大和路を進み、大神神社の御神木の薫り床しい三輪の里（現在の奈良県桜井市）から、権力者・入鹿の御殿のある三笠山へと向かうのです……。

大化の改新を題材にした壮大な物語のうち、今回上演の場面は四段目に当たります。淡海、橘姫、そして異様な風体の男・鱶七が、それぞれの思惑を抱き、入鹿の御殿に集結し、政争の渦が湧き起こります。

この政争とは無縁であるはずの田舎娘・お三輪の犠牲が、物語を大団円に導きます。簑助は、悲劇のヒロイン・お三輪を情熱的に、また官能的に表現しました。

杉酒屋の段
竹本 織太夫　竹澤 團七
道行恋苧環
お三輪　豊竹 呂勢太夫
求馬　竹本 小住太夫
橘姫　竹本 碩太夫
竹本 津國太夫　蘇我入鹿 竹本 聖太夫（豊竹 薫太夫）　金漁師鱶七実は金輪五郎 竹本 三輪太夫　豆腐の御用 竹澤 團吾
鱶七使者の段
豊竹 藤太夫　鶴澤 清 方
姫戻りの段
竹本 咲寿太夫　鶴澤 寛太郎
金殿の段
切　豊竹 若太夫　鶴澤 清介

丁稚子太郎　桐竹 紋秀
橘姫　豊松 清十郎
求馬実は藤原淡海　吉田 簑紫郎
お三輪母　桐竹 紋臣
宮越玄番　吉田 玉彦
荒巻弥藤次　桐竹 勘介
蘇我入鹿　吉田 佳助
漁師鱶七実は金輪五郎　吉田 玉勢
豆腐の御用　吉田 玉ぜい
官女・花四天　大ぜい

第3部　午後5時45分開演（午後8時20分終演予定）

本朝廿四孝

戦国大名たちが権謀術数を巡らす時代、足利将軍が暗殺された影響により、甲斐の武田家と諏訪の長尾家は、当主の嗣子（後継者）の命を差し出すよう命じられます。武田家では嗣子・勝頼の身代りが切腹を遂げ、簑作と名乗る真の勝頼と身代りの男性の恋人・濡衣とが、長尾家に潜入します。長尾家の嗣子・景勝にも危険が訪れますが、当主の謙信を中心に虚々実々の駆け引きが行われます。

そんな不穏な空気の中、謙信の娘・八重垣姫は、亡き許婚の勝頼の絵像に回向を手向け、腰元として入り込んだ濡衣も、亡き恋人を弔っています。そこへ、勝頼と瓜二つの簑作が現れ、八重垣姫は驚愕するのです……。

恋慕の激しさと姫としての気品、奇跡を表現する華麗な姿態―簑助の八重垣姫は文楽の精華とも称えられた金字塔でした。

諏訪明神百度石の段
口　豊竹 薫太夫（竹本 聖太夫）　鶴澤 燕二郎
奥　豊竹 靖太夫　野澤 勝平
景勝上使の段
竹本 三輪太夫　竹澤 團吾
鉄砲渡しの段
豊竹 亘太夫　鶴澤 清公
十種香の段
切　竹本 綴太夫　竹澤 宗助
奥庭狐火の段
豊竹 芳穂太夫　野澤 錦糸　ツレ 鶴澤 友之助　琴 鶴澤 清方

簑作実は武田勝頼　吉田 和生
車遣い権六　桐竹 亀次
車遣い勘八　吉田 玉征
車遣い九助　桐竹 勘昇（豊松 清之助）
関兵衛実は斎藤道三　吉田 玉志
長尾謙信　吉田 勘市
八重垣姫　桐竹 勘十郎
白須賀六郎　吉田 和馬
原小文治　吉田 玉路
車遣い・供侍・腰元　大ぜい

長尾景勝　吉田 簑一郎
板垣兵部　吉田 玉翔
腰元濡衣　吉田 勘彌
横蔵　吉田 文哉
落合藤馬　桐竹 紋吉